

【テーマ4】デジタル技術を活用した校内研修活性化のため指導主事や研修担当教員への校内研修高度化支援システムの開発

【鳴門教育大学】

モデル開発概要

現場における課題

指導主事に対する学校からのニーズは、学習指導だけではなく、生徒指導、学校経営等多岐にわたる。また、そのひとつを取り上げても、アセスメントを含めた学校状況の分析、考察、改善プランの提供、実施方法、評価など教科指導の専門家としての指導主事のこれまでの役割を越えた機能を求められている。つまり、指導主事には、学校全般にわたるコンサルティング機能が求められていると考えられる。このような状況下では、指導主事を支援することも必要となる。更には、校内研修の実質的な担当者である研修担当教員にも支援が必要となる。

モデルの概要

校内研修活性化に関する支援活動は、即時性と継続性が必要となる。そこで、大学の学校支援機能を拡充し、オンラインによる指導主事・研修担当教員支援システムを開発する。このシステムは、指導主事の配置のない地域や様々な要因により支援を受けにくい学校において、効果を上げることのできるものとも考える。

活用する技術・ツール等

ZOOM、支援受付・調整システム（開発）、アンケート集計システム（開発）

協力委員会 徳島県教育委員会・徳島県総合教育センター

協力企業 ウェブチップス（システム開発全般・HP並びにシステム保守管理）

対象人数 徳島県教育委員会指導主事・指導教諭・主幹教諭・研修担当教員

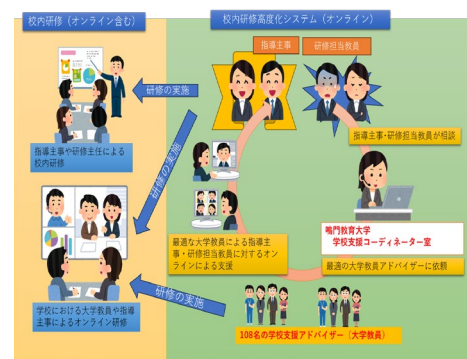
高度化に資する取組

大学に学校支援コーディネーター室を配置し、教育センターから派遣された指導主事と大学職員を配置する。このコーディネーター室では、学校や指導教諭からの学校経営全般に関わる相談活動等を行うプラットフォームとして構築する。コーディネーターは、学校や指導教諭からの相談内容に応じて、最適と考えられる大学教員に支援活動を要請する。日時等を決定した上で、大学教員のアドバイザーによるオンラインによる支援活動を行うものである。

（1）校内研修の活性化のための指導主事に対する支援の継続性を含めた体制
先に示したように、本学と徳島県教育委員会が連携して校内研修の活性化を狙って実施している「大学連携強化！学校力向上拠点校事業」をフィールドとして活用する。これは、指導主事と大学教員がチームを作り、市町村教育委員会の推薦を受けた小・中学校並びに県立中学校等を、学校力向上拠点校（以下「拠点校」）に指定し、大学と連携して、市町村教育委員会、県教育委員会と拠点校による学校力向上に向けた実践研究を行うものである。ここでの取り組みで得られた成果を計画訪問に取り入れることで学校改善・授業改善に資する。

内容を以下に示す。

- ①指導主事が行った拠点校のアセスメント結果についてオンラインで大学教員と協議する。
- ②校内研修計画の立案、実施計画等を指導主事、学校担当者、大学教員でオンライン機能を活用して支援
- ③実施中の指導主事に対する大学教員のオンラインによる支援
- ④指導主事による学校の担当者へのオンラインによる支援
- ⑤大学教員の校内研修に対する講演や演習など直接的支援



モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

オンライン研修支援システムを活用することにより、指導主事が時間と空間の制限なく大学教員から支援を得ることができる。

学校の研修担当教員が直接指導主事や大学教員から支援を求めることができる。